

上宮寺通信

第四十五号

世の中安穏なれ

ロシアがウクライナに軍事侵攻をして、はや2ヶ月以上が経ちました。戦況は泥沼化し、停戦も程遠くなっている感じがします。

連日、テレビ等では戦地の悲惨な状況が報道され、目を背けたくないような映像も映し出されます。いつこの戦争が終わり、ウクライナに平和が戻るのでしょうか。

いま、私たちはテレビやインターネットを通じて瞬時に情報を手に入れることができます。しかし一方、ロシアでは報道が規制され、自国に都合の悪いことは国民に知らせないという歪

曲された情報が伝えられていると聞きます。

同じようなことが、戦時中の日本でもありました。都合の良いことだけを知らせ、国民を戦争に駆り立てていく。それには多くの宗教教団も関わってきた歴史があります。

およそ世界の宗教は、どの宗教であっても教えの上では戦争(殺し合い)を否定しているはずですが(現実には悲しいことに宗教の名のもとで戦争が行われていますが…)。

仏教でも殺生はきつく戒められていますし、浄土真宗で最も大切にしています『大無量寿経』には「兵戈無用(ひょうごがむよう)」との文言があり、軍隊も武器もない世界を願うことが説か

れています。

しかし戦時中、日本の仏教教団の多くは戦争を賛美し、正義の戦いであると肯定してきました。

真宗大谷派では教えの要である親鸞聖人が書かれた『教行信証』の一説を、国家体制を非難する文言として削除。また、戦時布教として多くの布教使が

「一殺多生(一人を殺すことによつて多くの者を生かす)」という言葉などを使って、戦争を精神面から支えてきたのです。

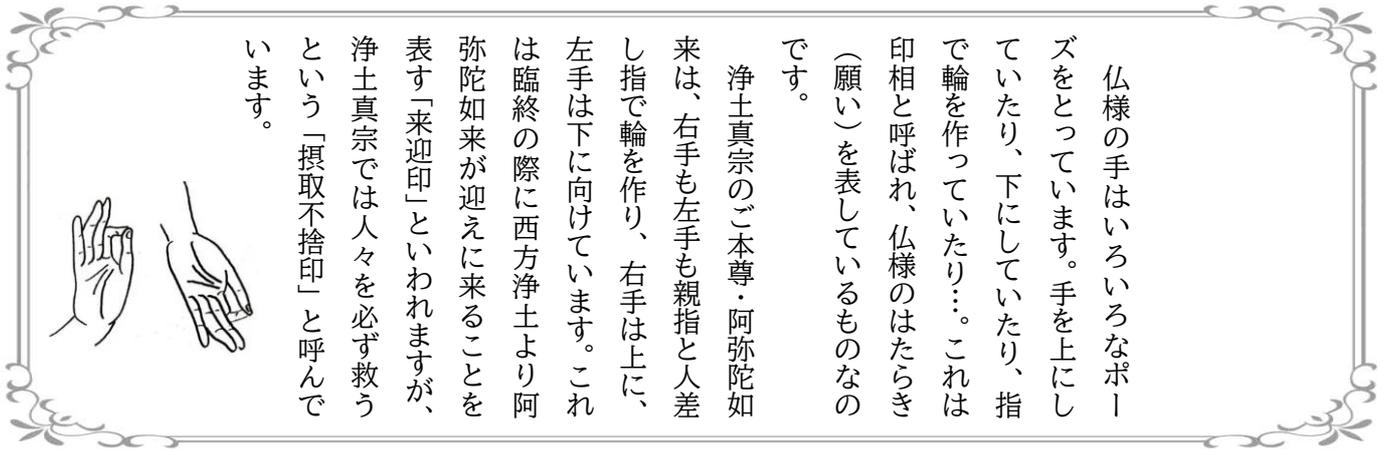
その反省から、真宗大谷派では世界のあらゆる戦争に反対する不戦決議を一九九五(平成7)年に表明しています。

「世の中安穏なれ 仏法ひろまれ」。これは親鸞聖人が門弟に

宛てた手紙の中に出てくる言葉です。

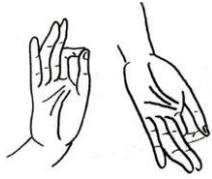
戦乱や飢饉など不穏な空気に包まれる当時の世の中にあつて、人々が平和に暮らし、仏の教えが行き渡ることを願う。仏の教えを聞くものは平和を願うのであつて、戦争を肯定していいのではない。このことはいつの時代でも忘れてはいけないことだと思ひます。





仏様の手はいろいろなポーズをとっています。手を上にしていたり、下にしていたり、指で輪を作っていたり…。これは印相と呼ばれ、仏様のはたらき(願い)を表しているものなのです。

浄土真宗のご本尊・阿彌陀如来は、右手も左手も親指と人差し指で輪を作り、右手は上に、左手は下に向けています。これは臨終の際に西方浄土より阿彌陀如来が迎えに来ることを表す「来迎印」といわれますが、浄土真宗では人々を必ず救うという「撰取不捨印」と呼んでいます。



◆行事案内

長野善光寺・小布施・北向観音巡り

七年に一度のご盛儀・善光寺御開帳に参拝いたします。

5月18日(水)～19日(木) 参加費 38、000円

宿 泊 渋温泉 渋ホテル 募集人員 20名

※定員になり次第しめきり

※全行程食事つき。中型サロンバスを使用します。

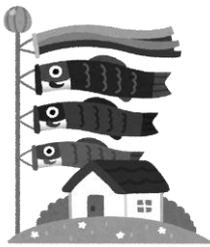


◆話題あれこれ

○3月の終わりに石庭で有名な京都・龍安寺に何十年ぶりかで行ってきました。時は流れても変わらないところというのはいいですね。

○規制がない3年ぶりのGW。行楽地はかなりの賑わいを見せるのでしよう。その後に感染者数が増加…、ということにならないように。

○これからだんだんと気温も高くなり、蒸し暑くもなってきました。体調には十分お気をつけください。



【雑感】

立浪新監督のもと、予想外(?)の健闘をみせている中日ドラゴンズ。昨年までと違って粘り強くなり、逆転勝利や1点差での勝利も目立つようになりました。先日、バンテリンドームに観に行つた試合では期待の高橋宏斗投手が本拠地初勝利、誕生日だった京田選手が先制タイムリーと見応えたつぷりでした。強いドラゴンズの復活を願うファンの期待も高まるばかりかと思いきや、それでも球場はガラガラ。こちらは健闘をみせているとはいえないようです。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547